研究主題　自他のよさを認め、自ら判断し、よりよく生きようとする生徒の育成

― 道徳の時間における話合い活動の充実を通して ―

Ⅰ　主題設定の理由

本校では昨年までの２年間、道徳教育総合支援事業の委託を受け、主に道徳教育の全体計画の見直しと授業改善に取り組んできた。その研究成果を生徒の道徳性や教員の指導力の向上につなげていくためには、今後も継続して同じ課題に取り組んでいくことが有効であると考え、同主題をテーマとして研修していくこととした。道徳の時間については、平成 30 年度の特別教科化も視野に入れ、研修を積み、指導力を向上していくことが各教師にとって不可欠である。本校においては、昨年度まで副主題として『自己決定を導く資料提示や発問の工夫』を掲げ、研究してきた。道徳の時間を実施するにあたり、生徒の意思決定(本校では自己決定とよんだ)を促すために、生徒が主題について考え自身の意見を持ちやすいよう資料提示の工夫や発問の精選等の活動を行ってきた。模擬授業や研究授業、検討会を行ってきたことで道徳の時間の指導方法に改善が見られ、生徒の自己決定を導くことに一定の成果を得ることができた。しかし、当然ながら道徳の時間における発問に１つの正答は存在しない。自身の考えを持つことができたとするならば、それを客観的に考え、吟味していくことで道徳的価値に対する考え方も深まっていくものである。他者の考えを知ることは、自分だけでは気付かなかった新たな発見があり、道徳性を高めていくために不可欠なことであるといえる。そこで今年度は自身の考えをもとに友達と意見交流をすることで自身の考えを深め、将来に資する道徳性を高めていくことをねらいとして、道徳の時間における話合い活動の充実を副主題とし、本主題を設定した。

Ⅱ　研究の概要

１　研究のねらい

昨年度までの研修の中で本校の道徳教育は大きく進化した。まず、研修を通して職員一人一人の道徳教育への意識が大きく向上したことが挙げられる。現行の指導要領に記載されているように、道徳教育は学校教育全体を通して行うものであり、各教科や行事においても道徳教育を意識した日常の指導が行われるようになった。その中心となるのは道徳の時間である。年間指導計画に沿って 35 時間の道徳の時間を計画的に実施してきたこと、資料提示の仕方や発問構成の工夫などを通して資料に描かれている道徳的価値を理解させ、自己の生き方を振り返って道徳的価値に基づいた人間としてのよりよい生き方についての自覚が深められるようにしてきたことも成果として挙げられる。今年度は、この成果を生かし、目の前にいる生徒達の道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えをさらに深め、道徳的実践力を育成し、将来の生き方に資することが研究のねらいである。

２　主題に関する基本的な考え方

(1) 昨年度までの研修を生かして

○ 年間 35 時間の道徳の時間を量的、質的にしっかりと確保し、道徳教育の中心として位置づけ、機能させてきた。その成果をさらに高め、高山中の生徒達の指導に役立てていきたいと考えている。

(2) 道徳の時間を充実させるために

○ 主発問を中心に、生徒一人一人の意見を交流する場を確保し、交流を通して道徳的価値についての理解を深めていく。

○ 価値理解(道徳的価値は大切であること)、人間理解(道徳的価値は大切であるが実現は難しいこと)、他者理解(道徳的価値の実現に向けては多様な感じ方・考え方があること)の３点を押さえることで、道徳的価値についての理解を深めることができるよう授業を構成していく。

○ 補充・深化・統合のいずれを意図するかを明確にして授業を行う。

○ 年間指導計画や道徳教育全体計画別葉をもとに、年間 35 時間の道徳の授業を質的、量的に確保していく。

○ 効果的な資料提示や発問の工夫など昨年度までの取組で得られたノウハウを今年度も生かしていくとともに、異動によって新しく本校に配属となった教師にも共有していく。

○ 「はばたく群馬の指導プラン」や「私たちの道徳」「のびゆく心ファイル」（高山中）を活用する。「ぐんまの道徳」は補助資料として 4-(8)郷土愛を中心に随時利用していく。

(3) 話合い活動を通して

○ 道徳の時間における話合い活動は、生徒の道徳的価値の理解を促すうえで非常に重要な要素であり、たとえば「価値理解」「他者理解」「人間理解」の３つを深めるためにも有効な手段である。

○ 一昨年度に策定した道徳話合いの約束を継続して生かしていく。

○ 話合い活動をすることは手段であって、目的ではない。必要に応じて授業の中に取り入れていく。

(4) 全職員が協同して取り組める推進体制

○ 全体会は、各部の進捗状況や研究について共通理解を図る。

○ 実質的な活動の部会として学年部と研究開発部を設ける。特に学年部では、学年主任を中心に道徳の時間の実施状況を随時確認していくとともに、資料ごとに教師が出前授業をするなど、学年内の協力を仰いでいく。

(5) 生徒の実態把握と道徳教育の諸計画の見直し

○ 道徳意識調査による実態把握を 1、2 学期に行う

○ 授業の終わりに 4 点の振り返り評価を実施、その結果を記録し、学年内で共有していく。

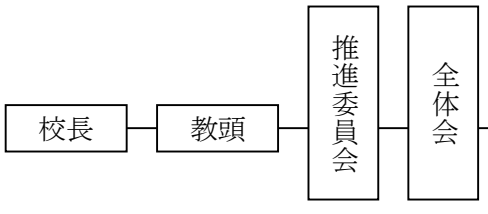
○ 道徳の時間の進行状況を学年主任が中心となってチェックしていく。同じ価値項目の中で資料を替えて実施した場合には、それを記録しておき、来年度の年間指導計画作成に生かしていく。

(6) 教師の資質向上

○ 道徳教育の一人一授業公開を原則とし、学校教育全体で道徳教育に取り組む。

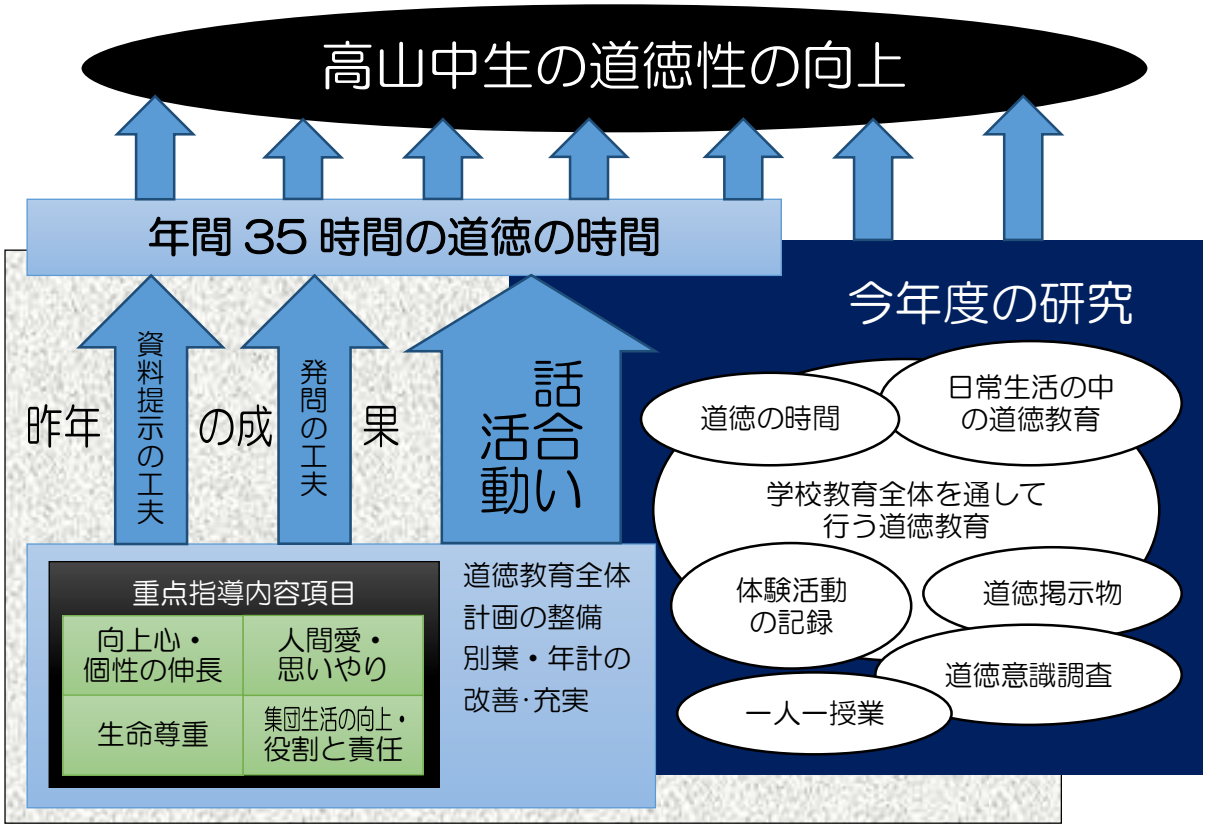
３　研究の内容と方法

(1) 校内研究組織



	研究開発部		
	授業研究部	体験活動部	情報分析部
１年	高田・笹崎	森山	竹内
２年	奈良(達)	本田	佐藤
３年	宮下・若林	山本・福田	奈良(保)

(2) 研究の全体構想図



(3) 道徳教育に関する指導計画の整備

昨年度までに整備してきた指導計画をもとに、今年度の道徳教育基本方針、道徳教育全体計画を作成した。今年度も学校の重点指導内容項目を 1－(5)向上心・個性の伸長、 3－(1)生命尊重、2－(2)人間愛・思いやりの心、4－(4)役割と責任の自覚・集団生活の向上とし、各学年の重点項目を 1 つずつ追加した。その後、全体計画にもとづいて別葉①、②と年間指導計画を作成した。全体計画別葉①は学校・生徒会行事と内容項目との関連表、②は道徳の時間と教科指導・特別活動等との関連表で学年ごとに整備されている。今年度、何度も問い合わせがあり、県内外の中学校へデータを提供している。また、平成 30 年度の特別教科化や昨年発表された新指導要領にあわせた全体計画および別葉の作成は来年度以降に計画している。

(4) 道徳の時間に関して

① 道徳の時間の位置づけ

昨年度までの研修の成果を生かして、道徳の時間の充実を今年度の研修のメインとしている。現行の指導要領では、「道徳の時間においては、(中略) 各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成するものとする」とされている。道徳教育は学校におけるあらゆる教育活動を通じて行われなくてはならないものであるが、各教科などで行われる道徳教育を補充したり、深化したり、統合したりする役目を負うのが道徳の時間である。そのことを意識した授業づくりをするために、1 単位時間の道徳が「補充」「深化」「統合」のいずれに当たるのかを考えて授業を準備することとしている。具体的には、これまでの指導の機会が多く、生徒の実態を見ても高まりつつあると考えられる場合には「深化」を、指導の機会はあるがそれぞれがバラバラの経験となっているような場合には「統合」を、指導の機会が少なかった内容項目や生徒の実態からみて高まりが見られないような場合には「補充」を、それぞれ意識して授業を計画していく。

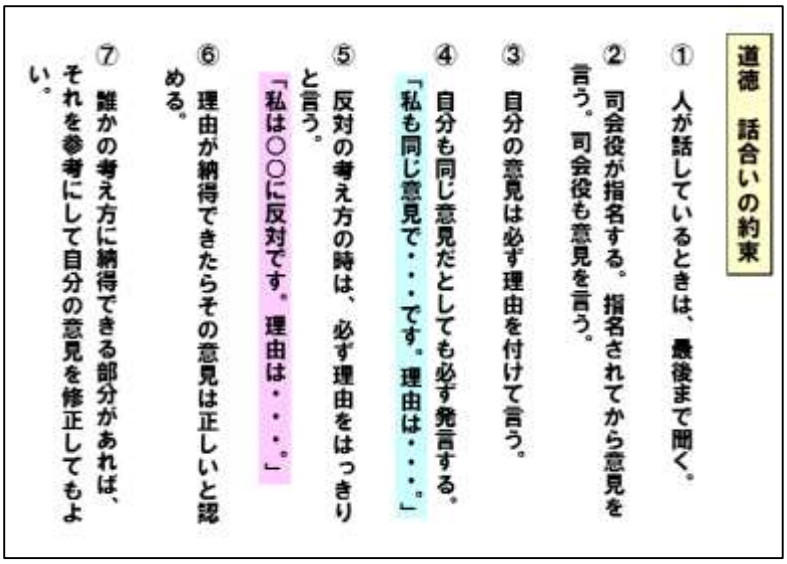
② 指導観を持つ

授業の準備には明確な指導観を持つことが重要である。これまでやってきたように、価値観、生徒観、資料観の３点をその基本としている。ねらいとする価値は何なのか、授業者が内容項目に関して分析をすることは不可欠である（価値観）。中学校学習指導要領解説＜道徳編＞を利用することが自然な光景となっていることは、研修を継続してきた成果でもある。これまで生徒がどのような学習を行ってきたか、内容項目に即して生徒の実態をつかむ上では、道徳教育全体計画別葉が有効である（生徒観）。全体計画別葉は、昨年まで利用してきたものを一部改定し今年度のものとした。資料を分析し、その資料をどう扱うか考えることは毎週の道徳の準備において、最も時間を割いていることである（資料観）。特に資料の中で主発問として扱う場面をどこにするか、どの登場人物の心情にスポットライトを当てるかなど、職員同士で意見が分かれることもあり、議論が繰り返される様子があった。

③ 主発問を中心とした発問構成の工夫

主発問を中心とした発問構成にしていくことには、昨年度までの授業作りの経験が生かされている。資料を読んだ後に、できるだけ早く生徒を主発問と向き合わせ、それをじっくり議論できるよう工夫してきた。主発問に辿り着くまでに、どうしても補助発問が必要なときはできるだけシンプルに素早く済ませるようにしていることも、日常の道徳の姿となっている。

④ 話合い活動の充実



今年度の研修の中心は話合い活動の充実である。道徳の時間における話合い活動は生徒の道徳的価値の理解を促すうえで非常に重要な要素である。たとえば仲間の意見を聞き、自分では気付かなかったことに気付いたり、自分と同じ考えを持つ仲間の存在が自信につながったりすることが「価値理解」を深めることにつながる。自分とは違う意見と出会うことで「他者理解」は深まり、価値の大切さは分かってもなかなか実現することが難しいことを共感することで「人間理解」は深まっていく。

道徳の時間における話合い活動にはいろいろな形態があるが、最小単位では隣同士のペアでの意見交流、もちろんクラス全体での意見交流も行ってきた。一昨年度に策定した道徳話合いの約束は、教室で生徒から見やすい位置に掲示され、活用されている。話合い活動の結果、例えば班でひとつの意見にまとめるなどの活動は行わず、自身の考えに変化があれば意見を修正していくよう心がけてきた。

⑤ 振り返りの実施

今年度も道徳のワークシートには統一形式の振り返りアンケートを取り入れ、授業の最後に丸をつけるようにした。

＊道徳の時間を振り返ってみよう。

A 意欲的にできた　B できた　C あまりできなかった　D できなかった				
1　資料について、興味を持って読めましたか	A	B	C	D
2　自分の考えを伝えることができましたか	A	B	C	D
3　友だちの考えを聴くことができましたか	A	B	C	D
4　授業の内容について深く考えることができましたか	A	B	C	D

⑥ 道徳指導案の形式

本校の道徳指導案の形式は昨年度作成したものを継続使用している。その特徴は、補充、深化、

統合のいずれかを明記することや、②で示した指導観をしっかりと書いていくことである。これにより、道徳の授業作りの視点が明確に示せるようになった。以下は指導案の形式を示したものである。

4ページの中に展開や板書計画などが入り、ひと目で分かるよう工夫した。

⑦ 道徳掲示物の作成

道徳の時間に学んだことを振り返ることができるよう、道徳掲示物を作成した。図は１年生が２学期に行った「むかで競走」の授業の掲示物である。発問に対する生徒の意見や感想などを貼り付け、自分の意見だけでなく他にもこんな意見があったのかと感じられるようにつくられている。

(5) 教科指導や学校行事において

① 道徳教育の視点

「道徳教育は学校におけるあらゆる教育活動を通じて行われる」と指導要領にも示されているように、各教科の指導や学校行事においても道徳教育の側面を見過ごさないようにしてきた。全体計画別葉に記載したとおり、単元ごと、行事ごとに関連する価値項目を明確にしている。実施した一人一授業では、教科指導をこれにあてた職員も多く、この際、道徳教育の視点を指導案に明記した。

② 話合い活動を通して

教科指導においても、話合い活動は生徒一人一人が新たなことを学んだり、理解を深めたりするうえで有効な手段である。日常の授業の中では、様々な場面で話合い活動は取り入れられている。一人一授業の実践では、授業のどこかに話合い活動が組み込まれており、参観者の視点となっていた。

③ 振り返りカードや道徳ファイルの継続使用

一昨年から継続使用している道徳ファイルには､道徳の時間に使用したワークシートのほかに､行事や講演会などを通して学んだこと､感じたことを記入した振り返りカードを綴じこんでいる。今年で 3 年目ということもあり、3 年生の道徳ファイルには、1 年生からの 3 年間のプリントがまとめられている。中身を振り返る機会はそう多くはないものの、例えば行事のときに感じたことを後から振り返ることもできるので、大切に扱っていきたいと考えている。

(6) 代表授業と一人一授業の実施

前述の通り、今年度も一人一授業の公開を行った。担任を中心とした道徳の公開のほか、教科指導の公開を 2 学期中に各教諭が行った。道徳の時間については、計画訪問の際に代表授業を 3-A において実施、また、12 月 14 日には本年度の代表授業として 1-A での授業公開を実施した。他にも､「ぐんまの道徳」を資料として活用した授業や学年主任による道徳の授業なども公開授業として実施した。授業公開の後、時間の都合で検討会を持つことができなかった授業もある。そういった場合には、参観者に気付いたことをメモしてもらい、それを集めて研修主任が「研修だより」を作成し全職員に配布した。(p.18 参照)

計画訪問の際の 3-A での代表授業では､「3-(3) 人間の弱さの克服、気高く生きる」について授業が行われ、資料「足袋の季節」が使用された。授業では班ごとに座って意見交流をする場面が設けられ、友達の意見を参考に自身の考えを深めるようすが見られた。また 12 月 11 日、14 日には、1 学年の道徳「二度と通らない旅人」を代表授業として公開した。授業を自習にするなどして、全教職員での参観することができた。この授業においては、1 学年担当教諭を中心に研究を重ねてきた。資料選びに始まり、価値の分析、資料の分析を行い、登場人物の誰の心情をクローズアップするのが良いか、主発問をどこにするかといった検討が行われた。11 日の 1-B での授業公開を受け、当日中に検討会を実施。その反省点を話し合った。続いて 1-A での指導案を検討、主発問とその後に続く切り返しの発問を工夫し、話合い活動の中でより深いところまで考えさせることを目指した展開にかえ、新しい指導案で 1-A の授業公開を行った。

4 研究の経緯

第 1 回全体会	4/20	研修テーマ設定
第 2 回全体会	4/27	テーマ、部会等の決定、学力向上の手立て
第 3 回全体会	5/25	学力向上の取組と年間計画作り

第 4 回全体会	6/1	道徳の授業づくりと意識調査について
第 5 回全体会	6/22	要請訪問 I
第 6 回全体会	7/13	道徳掲示物つくり・アンケート集計
	7/21	iPad 導入研修会
第 7 回全体会	8/24	一人一授業割り振り
	9/25	道徳授業公開　2-A(奈良達)
第 8 回全体会	9/28	一人一授業(道徳)検討会
	10/1	道徳授業公開　1-A(竹内)
計画訪問	10/16	道徳代表授業　3-A(宮下)
	10/23	音楽科授業公開　2-A(福田)
	11/6	社会科授業公開　3-B(奈良保)
第 9 回全体会	11/9	一人一授業について
	12/4	数学科授業公開　3-B(若林)
	12/11	道徳授業公開　1-B(笹崎)
第 10 回全体会	12/14	道徳代表授業　1-A(高田)　　道徳授業検討会
	12/16	英語科授業公開　3-A(佐藤)
	12/21	理科授業公開　3-A(山本)
第 11 回全体会	1/25	紀要について
	1/27	初任研研究授業　1-B(森山)
第 12 回全体会	2/15	1 年間のまとめと来年度の研修について

５　主題以外の部分での研修

(1) 学力向上に向けた取組

今年度の研修主題とは異なる取組であるが、教科指導の中で学力向上の取組を行ってきた。その一つが、授業冒頭における本時のねらいの提示と授業終末における学習内容の確認である。最初に授業のねらいを示すことは、生徒にとって学習の見通しを立てさせることができ、目標意識を高めることにもつながると考えた。この取組については、これまでも多くの教員が行ってきたが、今年度新たに加えたことが、授業の終わりに学習内容の確認をすることである。授業を受けてそのまま終わってしまうのではなく、学んだことを復唱することで生徒に定着させることが目的である。各授業の中にねらいの提示と学んだことの確認が一対になって存在することで、一単位時間の中で学ぶべきポイントを押さえられたことを一人一人に確認させることができた。

(2) ICT 活用に関する取組

今年度の iPad 導入に関して、校内研修の時間を利用して使用方法の研修を行った。初めて iPad に触れるという職員も少なくなかったが、使用方法にも慣れ、その後の授業では高い頻度で使用されるようになった。iPad の具体的な使用例としては、1 つ目に教材の提示がある。例えば、パソコンを使って作成したパワーポイントのプレゼンテーションファイルを iPad に保存、教室で iPad を利用して生徒の提示する方法である。iPad の画面は無線で TV に表示させているので、教師は教室のどこからでも、片手に iPad を持って授業を行うことができる。スライドショー中に指を使って線や文字を画面に書き込めることも iPad の利点といえる。2 つ目に授業の記録である。iPad は写真や動画を記録することができるので、例えば理科の実験において、一瞬で色が変わる様子をみんなで見たい場合、直接見ることはもちろん、その様子を iPad で撮影、TV で繰り返し再生するといったことも可能となった。また、C 組の授業では、生徒に iPad を操作させるケースも少なくない。学習に有効なアプリケーションを利用することで、生徒にとって取り組みやすい学習を提供できた。

Ⅲ　実践

１　道徳の時間

(1) 10 月 16 日　3 年 A 組　＜宮下＞

深　化　を意図した道徳の時間

主題名　「人間の心の美しさ」

内容項目３－(３) 強さ・気高さ・生きる喜び

第３学年Ａ組　２１名　　指導者 宮下　昌志

１　ねらい　人間の弱さや醜さに向き合い、それを克服しようとする強さや気高さがあることに気付き、自分を見つめることで、夢や希望など喜びのある生き方を見いだそうとする態度を育てる。

２　資料名　足袋の季節　（出典　日本文教出版　中学道徳　あすを生きる②）

３　主題設定の理由《指導観》

(1) ねらいとする道徳的価値について《価値観》

人間には誰しも誘惑に負けたり、易きに流れたりしてしまう弱さがある。ときには、結果としてその弱さに流された行動をとってしまうことがある。心の中にもつ良心によって悩み、苦しみ、良心の責めと戦いながら、呵責に耐えきれない経験をすることもある。しかし、良心や自身の生き方への誇りがそれを凌駕したとき、弱さや醜さを克服した強く気高い生き方を選択できるようになる。また、人間として生きることへの喜びや人間の行為の美しさに気づくことで、より自分の人生を強く気高いものにすることができるようになっていく。人間の心に潜む弱さと強さ、醜さと気高さの二面性に気づき、より良い生き方、強く気高い生き方を選択できるよう道徳的判断力を養い、道徳的実践力の向上に努めていくことが必要である。

(2) 生徒の実態《生徒観》

人間の弱さに向き合い、それを克服しようとする強さや気高さがあることに気付き、夢や希望など喜びのある生き方を見いだそうとする態度を育てるために、学校教育全体で以下の指導を行ってきた。

①　道徳の時間における指導

２年時の６月に内容項目 3-(3)「良心のたたかい」と１１月に「ネパールのビール」（出典　日本文教出版中学校道徳　あすを生きる②）を資料として、人間には弱さを克服しようとする強さや気高さがあることを知り、失敗を糧にして自分を向上させることについて考えた。

②　各教科等での指導

ア　教科指導

国語科では、随筆「朝焼けの中で」において、朝焼けという雄大で荘厳なものの美しさを言葉で表現するにはあまりに無力な筆者の姿から、自然の表現力の見事さに人間のそれは及びようのないことを魂に染み通らせ、うちしおれた人が可能性を求めて生きようとする気高さや生きる喜びを感じ取った。

イ　特別活動

学級活動の時間では、進路選択と自己の向上について考えてきた。進路学習では、高校調べを行い、自分の将来の目標について考えた。

③　日常での指導

生徒は人間の弱さや醜さについては理解している。誰もが弱さや醜さをもつ反面、強さや気高さを併せもっていることに気付いていない。学級では、日頃から互いの考えや立場を理解し、尊重し合うよう指導を行っているが、他人の意見を真摯に受け止める姿勢までには至っていない。

本時の学習では、資料を通して人間の強さや気高さに目を向けさせ、弱さや醜さを乗り越えて生きることにこそすばらしさがあり、そのことを通して人間として生きる喜びを得ようとする態度を育てたい。

本時の授業は**「深化」**を意図して行う。生徒はこれまで「良心とのたたかい」や「ネパールのビール」を通して、人間の弱さの克服について学習してきた。「足袋の季節」に登場する主人公の心情を読み取る活動を通して、弱さや醜さを克服しようとする強さや気高さがあることに気付き、人間としての喜びを見いだそうとする態度を育てたい。

(3) 資料について《資料観》

本資料は今の中学生と同年代の少年が寒さに耐えかねて、大福餅を売るおばあさんから釣銭をごまかしとってしまう回想から始まる。良心の呵責に苛まれつつも直接おばあさんに謝ることのできなかった主人公であったが、数年後初月給をもらった後で再びおばあさんを訪ねる。ところがすでにおばあさんは他界、おばあさんとは会えずじまいになってしまう。そのことへの後悔の念と釣銭を渡してくれた際のおばあさんの目が今の筆者を支えていることが、筆者の視点で描かれた物語文である。

単なる資料の読み取りに終わることなく、筆者の心の揺れに注目して、最終的に狙いとする価値を自身とのつながりでとらえられるようにしていくことが大切と考える。

4　深化を意図し、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めるための指導の工夫

(1) 道徳的価値について理解するために

- 本時の導入では本時の主題を知る足がかりとして『心の弱さ』について質問し、心の弱さは誰にでもあることを確認させる。
- 朗読動画を使用し、資料の内容を押さえやすくする。
- 北海道小樽市の写真を提示し、足袋の必要性を押さえる。
- 少年時代、おばあさんの問いかけに対し筆者は決して軽い気持ちで「うん」と頷いたわけでないことやその後自責の念に駆られていることに注目させ、人間理解につなげていく。
- 初めて月給をもらい、果物かごを手に訪ねたが、既におばあさんは亡くなっていた。その時の主人公の心情を考えさせ、人間としての弱さや醜さがあったことに気付かせる。
- グループでの意見交流の場を設けることで、多様な考えにふれさせる。
- 自己を振り返る場面においては、多様な意見を紹介するために、意図的に指名する。

(2) 自分とのかかわりで道徳的価値をとらえるために

- 資料における登場人物の心情の変化から学んだ道徳的価値をもとに、今までの自分を振り返り、自分の心の中の葛藤にかてた経験を書かせ、自分も生きる喜びを得られたことを気付かせる。

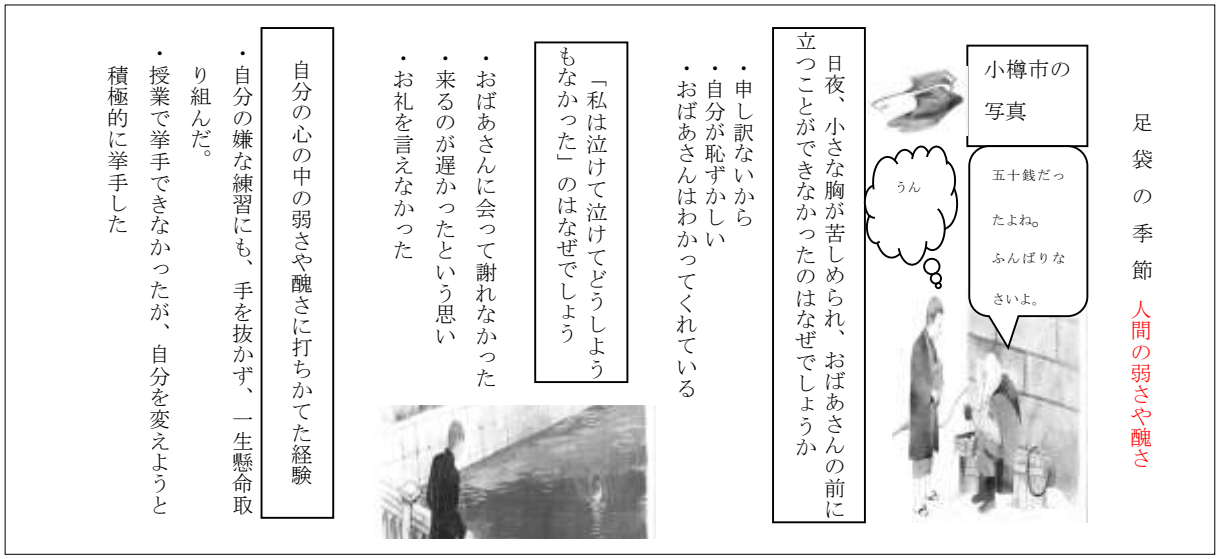
(3) 道徳的価値にかかわる課題を培い、人間としての生き方についての自覚を深めるために

- 「私たちの道徳」p.120 にある詩を読み、誰の心の中にも弱さや醜さがあることに改めてふれ、「人間として生きる喜び」は自分と向き合うこと、つまり、変わろうとする気持ちの変容から得られることを気付かせる。

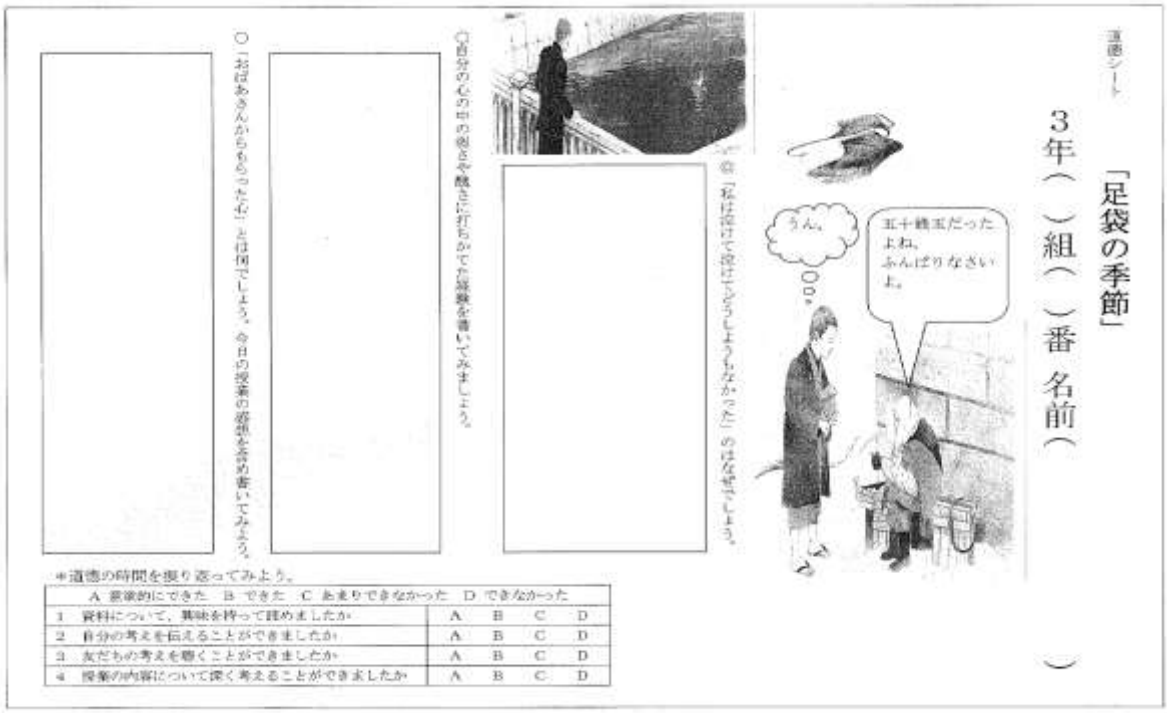
５　本時の展開

過程	学習活動と発問「　　」(◎は主発問) ・予想される生徒の反応	指導上の留意点(○) 及び評価の観点(☆)
導入（３分）	１　本時の道徳的価値についての方向付けを行う	○自分自身の「心の弱さ」について問いかけ、誰の心にも弱さがあることを確認し、本時の道徳的価値を伝える
展開（３７分）	２　資料（朗読動画）を聞いて話し合う ＜価値理解＞＜人間理解＞＜他者理解＞	○足袋がないと厳しい環境だったことを押さえる
	(1)「日夜、小さな胸が苦しめられ、おばあさんの前に立つことができなかったのはなぜでしょうか」 ・申し訳ないから ・自分が恥ずかしい ・おばあさんはわかってくれている	○筆者は決して軽い気持ちで「うん」と頷いたわけでないことやその後自責の念に駆られていることを押さえる
	◎(2)『「私は泣けて泣けてどうしようがなかった」のはなぜでしょう』 ・おばあさんに会って謝れなかった ・来るのが遅かったという思い ・お礼を言えなかった	○ワークシートを活用し、自分の考えを書かせる ○少人数グループで話し合い、多様な考えにふれさせる ○グループでの話合いをもとに、自分の考えたことを発表させる ○自分を振り返り、自己の弱さや醜さに気付き、変わりたいと思ったからこその涙であることに気付かせる
	３　「私たちの道徳」p.120 を読んで本時の道徳的価値を理解する	○詩を読むことで、資料に描かれた道徳的価値の共通理解を図る
終末（１０分）	４　自己を振り返る＜自己理解＞ (3)「自分の心の中の弱さや醜さに打ちかてた経験」 ・自分の嫌いな練習にも、手を抜かず、一生懸命取り組んだ ・授業で挙手できなかったが、自分を変えようと積極的に挙手した (4)「おばあさんからもらった心」とはなんでしょう。感想を含め書きましょう。	○ワークシートに自分の経験を書かせる ○数名の生徒に発表させる ☆自分を見つめ、弱さや醜さを乗り越えようとする思いがもてたか

6　板書計画



7　ワークシート



(2) 12月14日　1年A組　＜高田＞

補　充　を意図した道徳の時間　(略案)

主題名　「よりよく生きようとする喜び」

内容項目 3－(3)人間の気高さ

第１学年Ａ組２０名　　指導者　髙田　優樹

1　ねらい　　主人公（父親）の行動や生き方に関する話し合い活動を通して、誇りある生き方に近づこうとする道徳的心情を育成する。

2　資料名　　「二度と通らない旅人」（日本文教出版　あすを生きる①）

3　本時の展開

過程	学習活動と発問「　　」(◎は主発問) ・予想される生徒の反応	指導上の留意点(○) 及び評価の観点(☆)
展開（37分）	1　朗読 CD を聞き話し合う ＜価値理解＞＜人間理解＞＜他者理解＞	○事前に資料を一度読み、授業内で朗読 CD を聞くことで、長い本文の内容を理解できるようにする。
	◎「旅人を泊めなかった父をどう思いますか？そう思った理由も書いてください。」 ・嵐の中、旅人を泊めないのは、ひどい。 ・嵐でも､病気の娘もいることや家族を守ることを考えるとしょうがない。 ・水もあげずに、薬だけもらってずるい。 (補１･･･父親否定派のグループ) 「旅人が悪い人かもしれないのに、本当にひどい？」 (補２･･･父親肯定派のグループ) 「旅人に『薬だけでも』と言われドアを開けたことはどう思う？」	○旅人を泊めなかった父親の行動について、自分の考えをワークシートに記入する。その後 3、4 人のグループで話し合う。話し合いをもとにもう一度、自分の意見をまとめる。 ○生徒同士で、父親の行動に関して深められるよう、助言は控える。 ○話し合いが深まらない場合は、(補１)もしくは(補２)の補助発問を与え、考えを深めさせる。 ○生徒から出された意見を板書し、同じように考えた人を確認しする。
	○「どのような思いが父親を後悔させたか」 ・娘が元気になり、旅人に感謝しているから。 ・旅人と比べ自分の行動が恥ずかしかった。	○父親の善悪ではなく、父親が自分自身を後悔し、今後よりよく生きようとする思いに気付かせる。
終末（13分）	3　道徳的価値について自分とのかかわりで考える＜自己理解＞ ○「父の生き方をどう思いますか？」	○本時の中で考えたことをもとに、これから自分自身がどのように生きたいか考えさせる。
	☆人間には生きていく中で後悔や失敗することがあるが、それを乗り越え、より良く生きようとすることが大切であることに気付けた。	

4　板書計画

第二十七回　「二度と通らない旅人」

◎旅人を泊めなかった父をどのように思いますか？

後悔した

「ああした夜、泊めてくれと頼んだ人があったら、快く泊めてやらなければならぬ。」

○父の生き方をどう思いますか？

5　プリント

道徳ワークシート第 27 回　　（　　）組（　　）番　名前（　　）

二度と通らない旅人

①＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

②＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

今日の振り返り　　A 意欲的にできた　　B できた　　C あまりできなかった　　D できなかった				
1　資料について、興味を持ってましたか	A	B	C	D
2　自分の考えを伝えることができましたか	A	B	C	D
3　友だちの考えを聴くことができましたか	A	B	C	D
4　授業の内容について深く考えることができましたか	A	B	C	D

２　体験活動

(1) 花プロジェクト～異校種間交流（第１学年　９月～12 月実施）

中之条高等学校生物生産科の３年生と先生方にお世話になり、パンジーの種蒔きと鉢上げを行った。育てた苗は学級ごとに花壇に植え、幼稚園や小学校へもお配りした。

〇道徳とのかかわり　4-(5) 勤労・社会への奉仕　3-(1) 生命の尊重

花（パンジー）の栽培活動を通して、生命尊重の精神とボランティア活動に必要な社会奉仕の態度を身に付け、学校や地域社会の活動に生かすことができる。

〇生徒の感想

・パンジーのことはあまり知らなくて興味がなかったけれど、パンジーを植えていくうちに生物生産科の３年生の方々や桜井先生がパンジーについて色々教えてくれて、パンジーを植えるのがとても楽しくなりました。地味な作業だけどとても大事なことで、この機会でパンジーに興味がわき積極的に水やりをしようと思います。(女子)

・地味な作業だったけれど楽しかったです。高校生の人が積極的に話してくれたので話しやすかったです。高校生が分かりやすく説明してくれてよかったです。(男子)

(2) 職場体験（第２学年　９月実施）

〇道徳とのかかわり

4-(5) 勤労・社会への奉仕

勤労の尊さや意義について考えられるようにするとともに、体験を通して職業についての正しい考え方を育て、公共の福祉に努めようとする態度を育てる。

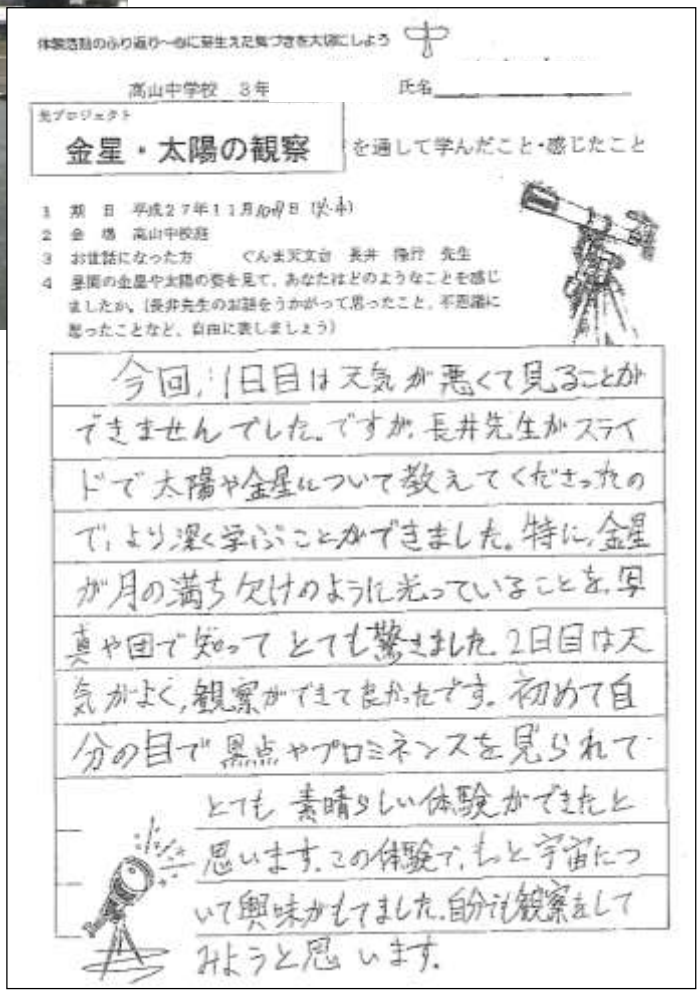
〇生徒の感想

・一番印象に残っていることは品出しです。一つ一つ値段のついているラベルをつける作業や何をいくつ仕入れたかなど細かくメモをとらなければなりません。単に品物を出すだけではなく、品物を出す前にやることがたくさんあることがわかりました。(男子)

・草刈りは機械を使ってやるので、操作は難しいですが楽しかったです。ぶどうを詰めるときに、やさしく入れないとぶどうが落ちてしまうので、一つ一つ丁寧に入れるのがとても大変でした。初めて店番をしてお客さんが来たときは、緊張してあまり大きな声が出なくて注意されてしまいました。将来、農家になったときに、この経験を生かしたいです。(男子)

(3) 光プロジェクト『天文教室』（第３学年 11 月 10 日・11 日実施）

ぐんま天文台の職員の方の指導の下、一日目は映像による学習、二日目は校庭に天体望遠鏡を設置して太陽の黒点・プロミネンス、金星を観察した。



体験活動のふり返り～心に芽生えた気づきを大切にしよう

高山中学校　３年　　氏名＿＿＿＿＿＿

光プロジェクト

金星・太陽の観察　を通して学んだこと・感じたこと

1　期　日　平成２７年１１月10日（火）
2　会　場　高山中校庭
3　お世話になった方　　ぐんま天文台　長井　隆行　先生
4　望遠の金星や太陽の姿を見て、あなたはどのようなことを感じましたか。（長井先生のお話をうかがって思ったこと、不思議に思ったことなど、自由に表しましょう）

今回、1日目は天気が悪くて見ることができませんでした。ですが、長井先生がスライドで太陽や金星について教えてくださったので、より深く学ぶことができました。特に、金星が月の満ち欠けのように光っていることを、写真や図で知ってとても驚きました。2日目は天気がよく、観察ができてよかったです。初めて自分の目で黒点やプロミネンスを見られてとても素晴らしい体験ができたと思います。この体験で、もっと宇宙について興味がもてました。自分で観察をしてみようと思います。

〇道徳とのかかわり

3-(2) 自然愛・畏敬の念

宇宙や天体の不思議さ・美しさに気付き、感動することで、豊かな感性をはぐくむとともに、地球の大きさをしのぐ宇宙の存在を身近に感じることで、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を抱くきっかけとする。

〇生徒の感想

・太陽にある黒点が見た目は小さいけれど地球の何倍もあったので驚きました。黒点は大きくなったり小さくなったりするのを知りました。とても分かりやすくて良かったです。２日目は天気も良く、外で天体観測ができました。やっと金星が見られました。そのときは半月でした。太陽も観測しました。プロミネンスがちょびちょび出ていました。僕は授業が終わってもずっと金星を見ていました。金星も太陽もとてもきれいでした。２日間とても良い経験をしました。（男子）

(4) 保育実習～異校種間交流（第３学年　11 月実施）

それぞれ手作りの玩具を携えて高山幼稚園の園児たちと交流した。

〇道徳とのかかわり

2-(2) 人間愛・思いやり　2-(6) 感謝

年長者としての自覚をもって幼児とのふれ合う活動を通して、相手の立場を尊重しながら親切にし、いたわり、励ますことができる。また、自身の幼い頃を客観的にふり返ることで、今の自分があるのは周囲の人びとのおかげであることに感謝の気持ちをもつ。

〇生徒の感想

・前回職場体験でおじゃましたので、僕を知っている幼稚園児がいて声をかけてもらい、嬉しかったです。今回短い時間の中で園児たちと遊んだわけですが、人を育むということは大変なんだなと、改めて実感しました。園児一人一人の主張が強いため、みんなと意見が分かれてケンカしている場面もありました。そこは、しっかり注意してあげて、仲直りさせました。ただ、自分と遊んでくれて喜んでいる園児を見ると、大変だけれど喜びを感じました。弟がいるので後で遊んであげようと思いました。（男子）

・私は小さい子たちと遊ぶことが得意ではないので、始まる前はすごく不安でした、始まってみると園児の子たちから近くに来てくれたので不安もなくなっていきました。室内では輪投げをしましたがどう声をかけていいか戸惑ってしまいました。そのとき、幼稚園の先生が少し声をかけただけで喜んでいたのですごいなと思いました。外で遊んだときは男の子とだったのですぐ走ってどこかに行ってしまうので大変でした。２時間という短い時間でしたがすごく楽しかったです。（女子）

（５）スキー教室（第１学年　１月実施）

地域の方６名に講師としてお世話になり、草津国際スキー場にてスキー教室を行った。

〇道徳とのかかわり　1-(5) 向上心・個性の伸長

生徒相互の関わり合いや講師の方との関わりを通して、自己の向上に努め、お互いに高めあう人間関係を作りながら自分自身の良さや個性を見いだすことができる。

〇生徒の感想

・なかなか「ハの字」ができず、みんなに全然ついていけないという気持ちと、まだ諦めないという気持ちで揺らいでいました。また、リフトに乗るのも少し怖かったです。リフトから降りて講師の人が付きっきりで教えてくれたおかげで、最後は楽しく滑れました。講師の人に感謝するとともに、諦めずにがんばる大切さも知ることができました。（男子）

・午後になってリフトに乗りました。リフトが上に上がって「えっ、こんなに高いの！?」と思いました。「もういやだ、二度と乗りたくない」と思いました。そうしたら校長先生が一緒にリフトに乗ってくれて本当に助かりました。普通に下る方法や、曲がる方法を講師の方が教えてくれました。足がとても疲れて大変だったけれど、楽しかったです。（女子）

３　研修だより

高山中学校 校内研修だより

No.01　　竹内先生
10/1　２校時　1-A 道徳

「自他のよさを認め、自ら判断し、よりよく生きようとする生徒の育成」　～道徳の時間における話合い活動の充実を通して～

10月１日，1-Aでの授業公開を行いました。参観をいただいた先生，そして授業を提供してくれた竹内先生、大変お世話になりました。

本時のねらい（授業としてのねらいであり，研修とは関係なく）

目標の実現に向けて、一歩ずつ努力を積み重ねることの大切さを理解し、着実に実行しようとする実践意欲を育てる。

授業の流れ

	時間	学習活動
導入	8	１　今、自分の頑張っていることを紹介する ・ 歌の練習　・ 部活動 ・ 勉強　・ 習い事
展開	35	２　資料を読んで話し合う ＜価値理解＞＜人間理解＞＜他者理解＞ ・「ひとあしーひと呼吸ーひと掃き」 ◎(1)「ベッポ（主人公）は、仕事をうまく行うためには、どんなことが大切だと考えているのだろうか」 ・ いちどに全部のことをしようとしないこと ・ ひとつひとつ仕事をこなしていくこと ・ 目の前のことに集中すること ・ 仕事を楽しむこと ・ 無理をしないこと ３　道徳的価値について自分とのかかわりで考える＜自己理解＞ (2)「あなたは、何かをやりとげるために大切なことはどんなことだと思いますか」 ・ 小さな事から頑張ること ・ 楽しむこと ・ 努力を続けること　・ 行動すること ・ 目標をもつこと　・ あきらめないこと ・ ときには、大きな事を考えることも必要
終末	7	４　私たちの道徳ｐ１６の文章を読み、なにかをやりとげるために必要なことを改めて考える ５　本時の感想を書き、振り返る

参観者より

本時のねらいに関して

○指名のテンポがよかった。
○生徒からの意見がでたのは日常の指導の賜物でもあると思う。
○多くの生徒が「やりぬく心」の大切さを理解できたと思う。
○生徒の活動時間が十分に取れていた。
○生徒の意見を板書していたのでどんな意見があるのか共有できたと思う。
○人間理解(それが大事なのは分かるんだけど…という部分)をうまく取り扱うことができたと思う。

話し合い活動に関して

○みんな自分の意見をしっかり言えていた。
○他の友達の意見を聞くことはやはり参考になったと思う。
○積極性のある生徒が多くてよかった。

その他

○読み方がとても上手で大変聞きやすかったです。
○授業のテンポがとても良かったとおもいます。
○大変お疲れ様でした。

[授業者より]

○資料の整理にあまり時間をかけず意見交流の時間が確保できた。
○生徒からいろいろな意見が出た。
●意図的に指名を充分に行えなかった。
●価値を深めるのに効果的な意見交流(話合い活動)のあり方。

今後、授業検討会の時間がとれない場合は先生方のコメントを集約する形で校内研修だよりを発行していきたいと思います。参観シートは少しの記入でも良いので当日中に渡していただけると助かります。

高山中学校 校内研修だより

No.05　笹崎先生
12/11　6校時　1-B 道徳

「自他のよさを認め、自ら判断し、よりよく生きようとする生徒の育成」　～道徳の時間における話合い活動の充実を通して～

12 月 11 日，1-B での授業公開を行いました。参観をいただいた先生，そして授業を提供してくれた笹崎先生、大変お世話になりました。

本時のねらい（授業としてのねらいであり，研修とは関係なく）
自分の弱さや醜さと向き合い、それを克服して誇りある生き方に近づこうとする道徳的心情を育成する。

授業の流れ

	時間	学習活動
導入	5分	1　最近、後悔したことを思い出す ○（1）最近後悔したことはありますか？ ・テストでもっと勉強しておけばよかった ・部活の大会でもっとがんばればよかった
展開	32分	2　資料を読んで話し合う ＜価値理解＞＜人間理解＞＜他者理解＞ ○（2）「黙り込んで火を見つめていたとき、父親は何を考えていたのだろう」 ・入れてあげればよかった ・水くらい飲ませてあげればよかった ・嵐の中で悪いことをしてしまった （補）「どうして 3 回目で扉を少し開けたのか。」 ◎（3）「一家の人々が『これから…泊めてやらなければならぬ。』と思うように変わったのは、なぜだろう。」 ・娘が元気になって、旅人に感謝しているから。 ・旅人と比べて自分の行動が恥ずかしかったと後悔したから。 （補）「その後、来るかどうかもわからない旅人を何年間も待ち続けたのは、どんな思いからか。」
終末	13分	3　道徳的価値について自分とのかかわりで考える＜自己理解＞ ○（4）「『後悔したこと』はみなさんにもたくさんありましたが、これから自分はどうしていくのがいいと思いますか。」 4　本時の取り組みを振り返る

参観者より

本時のねらいに関して

○最初の後悔したことを聞く質問では、ゲームのことや釣りのことなど、あまり「3-(3)人間の弱さの克服」とは関係のないものも見られた。これは中学 1 年生としての発達段階を考えれば、それも良いのかもしれないが、最終的に後悔しないようにしようというところに落ち着いてしまった感があった。

話し合い活動に関して

○挙手をする生徒が多く､活発な授業だった。全体での意見交流となった。

○考えを交流させる際、しゃべるのを面倒がってプリントをハイと見せる生徒がいた。

今後の授業作りへの案

○｢後悔｣というキーワードをいかに際立たせるか。例えば、父の後悔とは何なのか深めてみる。本当に父親のしたことはいけないことだったのだろうか、など。ここから意見が分かれるであろう。良くないことだと思えば、家族を守るためだったのだから仕方ないのでは？と、良いことだと思えば、でも薬をくれるといったら戸をあけたのは虫が良くないか、と切り返しの発音を用意しておく。

○学びとりたい価値である 3-(3)に迫っていくために、2 つ目には「これから、ああした夜、泊めてくれと頼んだ人があったら、快く泊めてやらねばならぬ。」と語り合う家族(特に父)の心情に迫っていく発問が必要であろう。

○最後には自己理解へつなげる発問を用意しておく。

本日５校時、１Ａでの公開授業となります。みなさん参観をよろしくお願いします。

高山中学校 校内研修だより

No.06　佐藤先生
12/16　1校時　3-A 英語

「自他のよさを認め、自ら判断し、よりよく生きようとする生徒の育成」　～道徳の時間における話合い活動の充実を通して～

12 月 16 日，3-A で英語の授業公開を行いました。参観をいただいた先生，そして授業を提供してくれた佐藤先生、大変お世話になりました。

本時のねらい（授業としてのねらいであり，研修とは関係なく）

自由と平等の世界を目指したジャッキーロビンソンについて思ったこととその理由を。15 語以上の英語を使って書くことができる。

校内研修(道徳教育)との関わり

【価値項目 4-(3)】正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。

	学習活動と内容	学習活動への支援・留意点（○）
導入	1．Unit 6 の新出単語を復習する。	○テンポよく進め、集中して学習できる雰囲気を作る。 ○本時の学習のキーワードとなるものを復習する。
	2．Unit 6 の音読練習をする。	○音読に興味をもって取り組めるよう、区切りごとに読む活動を設定する。
展開	3．本時のめあてをつかみ、見通しをもつ。 自由と平等の世界を目指したジャッキーロビンソンについて思ったこととその理由を、１５語以上の英語を使って Ella 先生に伝える文章にしよう。	
	4．ジャッキーロビンソンはどんな人物だったのか教師の発問に答える。	○本時のめあてに沿った思いを抱けるよう、ジャッキーロビンソンの自由と平等の世界を目指した行動を中心に発問をする。 ○答えを確認できるよう発問の答えを提示する。
	5．教師が作った２つのモデル文を聞き、使われていた英語とその意味を知る。	○基本と発展の２つのモデル文を示す。 ○英語を聞くことに自信をもたせられるよう、どんな英語が聞こえてきたのか単語単位で答えてもよいことにする。 ○モデル文を提示し内容の理解促進につなげる。 ○本時の書く活動の中でモデル文を活用できるよう、意味の確認や口頭練習をする場面を設定する。 ○より良い英文を書けるよう、モデル文の重要となる点を確認させる。
	6．自由と平等の正解を目指したジャッキーロビンソンについて思ったこととその理由を書く。	○自由と平等の正解を目指したジャッキーロビンソンについて思ったこととその理由を書くことで人権意識を高める。 ○ＡＬＴに伝える文章を書くという場面を設定し、自分の思いや考えを発信するという意識をもたせる。 ○表現力向上のきっかけとなるよう参考になる作品を見せ、クラス全体で共有する。
末	7．本時を振り返る。	○振り返りをさせ、今後の学習意欲につなげる。

授業を振り返って

○　「エラ先生に向けて」ということを設定したことでただ作成するのではなくなって、相手を意識した活動を設定することができた。

●　モデル文は１つでよかったかもしれない。2 つのモデル文に頼ってしまったがゆえに模倣の文章作りになってしまった。ジャッキーロビンソンがどんな人物だったか生徒に挙げさせことで、そのキーワードやキーフレーズを用いて自分なりの文章が作成できたのでは？

Ⅳ　研究のまとめ

１　道徳の時間に行う自己評価アンケートより

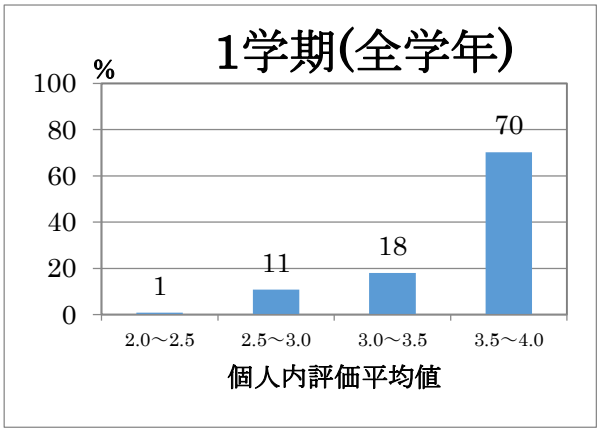
Ⅱ－３－(4)－⑤で示した道徳の時間の振り返りアンケートの結果を集計したところ、以下のような点が見えてきた。

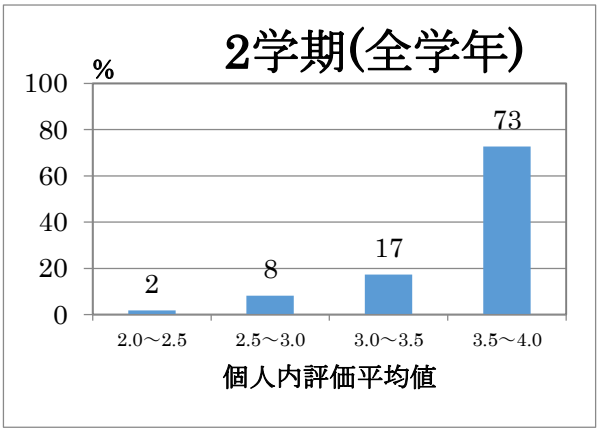
＊道徳の時間を振り返ってみよう。

A 意欲的にできた　B できた　C あまりできなかった　D できなかった				
1　資料について、興味を持って読めましたか	A	B	C	D
2　自分の考えを伝えることができましたか	A	B	C	D
3　友だちの考えを聴くことができましたか	A	B	C	D
4　授業の内容について深く考えることができましたか	A	B	C	D

なお、平均値の集計に当たっては、Aを４点、Bを３点というように点数化、４点を満点として評価している

結果





【「自己評価アンケート　資料ごとの平均値」から分かること】

○ 各学年とも、価値項目、題材に関わらず、おおよそ同じ数値である。

○ 各学年とも、１学期から２学期の全体の平均値は、あまり変動がない。

（要因として考えられること）

◇ 担任が道徳に熱心に取り組み、生徒も真剣に取り組んでいること。

◇ 道徳の時間だけでなく、教科や学校行事等、学校教育に関わるところでの道徳に関わる指導が生きていること。

【「自己評価アンケート　平均値の分布」から分かること】

○ 学年が上がるにつれ、平均値 3.5～4.0 の生徒の割合が増えている。

○ １学年において、以下のような変動が見られた。

＜平均値＞	＜1 学期の生徒の割合＞	＜2 学期の生徒の割合＞	＜増減＞
3.0 以下	12%	4%	−8 ポイント
3.0～3.5	21%	27%	+6 ポイント

○ ３学年において、以下のような変動が見られた。

＜平均値＞	＜1 学期の生徒の割合＞	＜2 学期の生徒の割合＞	＜増減＞
3.5 以下	28%	22%	−6 ポイント
3.5～4.0	71%	79%	+8 ポイント

○ 全学年において、以下のような変動が見られた。

＜平均値＞	＜1 学期の生徒の割合＞	＜2 学期の生徒の割合＞	＜増減＞
3.5～4.0	70%	73%	+3 ポイント

（要因として考えられること）

◇ 1単位時間の道徳の中で、考えたり、その考えを伝えたりする活動が十分に行われるようになったこと。

◇ 生徒が道徳の時間の学び方に慣れ、スムーズに学習に取り組めるようになったこと。

◇ 自身を肯定的に捉えられる生徒が増えてきたこと。

◇ 1学期から2学期へと時間の経過とともに、また学年が上がるにつれ、道徳的価値の理解が深まっていること。これは、生徒の生活経験の量が増えていることや学校教育における道徳の指導が成果をあげていることが更なる要因となっていると考えられる。

2　道徳意識調査より

今年度もマーク形式の道徳意識調査を5月と12月に行った。質問項目は以下の通りである。

1	「道徳の時間」の学習は好きですか。
2	「道徳の時間」の学習はためになると思いますか。
3	自分にはよいところがあると思いますか。
4	ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがありますか。
5	難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していますか。
6	将来の夢や目標を持っていますか。
7	人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。
8	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。
9	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
10	学校のきまり(規則)を守っていますか。
11	「道徳の時間」では、興味を持って資料を読んでいますか。
12	「道徳の時間」では、ほかの人の考えを聞きながら、自分のことについてよく考えていますか。
13	人には親切にしたいですか。
14	努力する人間になりたいですか。
15	将来のためにも、今、がんばりたいと思いますか。
16	人が困っているときは、進んで助けていますか。
17	近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか。
18	木を折ったり、動物を傷つけたりすることは、いけないことだと思ますか。
19	学級活動などでは、互いを信頼して話し合い、励まし合って、よりよい学級生活をつくろうとしていますか。
20	生徒会活動(委員会など)や学校行事において、学校の一員としての役割や責任をしっかりと果たしていますか。
21	部活動では、高い目標に向かって苦しいことにもくじけず、かんばろうとしていますか。

これらの質問について、「当てはまる」→ ④　「どちらかといえば当てはまる」→ ③　「どちらかといえば当てはまらない」→ ②　「当てはまらない」→ ①として生徒に記入させ、情報分析部で集計、考察を行った。集計されたデータは以下の通りであり、そこからは次のようなことが考えられる。

		1年　43名					2年　27名					3年　44名					全校　114名				
	質問	率④	率③	率②	率①	評価	率④	率③	率②	率①	評価	率④	率③	率②	率①	評価	率④	率③	率②	率①	評価
27年7月10日調査	1	20	58	20	3	B	44	48	7	0	A	21	57	17	5	B	27	55	16	3	B
	2	50	40	8	3	A	59	33	7	0	A	43	50	5	2	A	50	42	6	2	A
	3	10	53	35	3	C	19	56	19	7	B	17	52	26	5	C	15	53	28	5	C
	4	83	13	5	0	A	78	11	11	0	B	52	43	5	0	A	70	24	6	0	A
	5	33	40	18	10	B	30	41	26	4	B	19	55	26	0	B	27	46	23	5	B
	6	63	23	8	8	B	44	26	19	11	B	48	36	14	2	B	52	28	13	6	B
	7	65	30	3	3	A	67	26	7	0	A	71	26	2	0	A	68	28	4	1	A
	8	85	13	3	0	A	63	33	4	0	A	64	29	7	0	A	72	24	5	0	A
	9	68	30	0	3	A	74	19	7	0	A	69	24	7	0	A	70	25	5	1	A
	10	53	45	3	0	A	33	63	0	4	A	57	36	5	2	A	50	46	3	2	A

27年7月10日調査	11	25	60	15	0	B	59	37	4	0	A	43	43	10	5	B	40	48	10	2	B
	12	43	50	5	3	A	30	59	11	0	B	33	50	14	2	B	36	52	10	2	B
	13	75	25	0	0	A	78	22	0	0	A	76	21	2	0	A	76	23	1	0	A
	14	78	20	3	0	A	63	30	4	4	A	67	31	2	0	A	70	27	3	1	A
	15	68	28	5	0	A	63	30	7	0	A	62	31	7	0	A	64	29	6	0	A
	16	25	58	18	0	B	26	56	19	0	B	33	60	7	0	A	28	58	14	0	B
	17	85	15	0	0	A	78	19	4	0	A	79	17	5	0	A	81	17	3	0	A
	18	90	10	0	0	A	81	11	7	0	A	76	24	0	0	A	83	16	2	0	A
	19	50	45	5	0	A	33	56	11	0	B	33	62	2	2	A	39	54	6	1	A
	20	58	40	3	0	A	44	44	11	0	B	50	45	5	0	A	51	43	6	0	A
	21	68	28	5	0	A	44	48	7	0	A	50	45	2	2	A	55	39	5	1	A

		1年　43名					2年　27名					3年　44名					全校　114名				
	質問	率④	率③	率②	率①	評価	率④	率③	率②	率①	評価	率④	率③	率②	率①	評価	率④	率③	率②	率①	評価
27年12月10日調査	1	18	68	13	3	B	26	52	19	4	B	24	60	17	0	B	22	61	16	2	B
	2	33	60	3	5	A	56	44	0	0	A	55	38	7	0	A	47	48	4	2	A
	3	10	55	30	5	C	22	48	26	4	B	19	67	14	0	B	17	58	23	3	B
	4	65	23	10	3	B	67	33	0	0	A	69	29	2	0	A	67	28	5	1	A
	5	20	35	43	3	C	19	52	26	4	B	26	43	31	0	C	22	42	34	2	C
	6	45	28	18	10	B	41	41	19	0	B	50	31	19	0	B	46	32	18	4	B
	7	80	18	3	0	A	59	37	0	4	A	76	21	2	0	A	73	24	2	1	A
	8	75	23	3	0	A	74	22	4	0	A	76	21	2	0	A	75	22	3	0	A
	9	75	23	3	0	A	67	30	4	0	A	71	26	2	0	A	72	26	3	0	A
	10	30	63	5	3	A	22	74	4	0	A	52	43	5	0	A	37	58	5	1	A
	11	25	63	10	3	B	33	59	7	0	A	40	45	14	0	B	33	55	11	1	B
	12	30	55	10	5	B	41	44	15	0	B	40	45	14	0	B	37	49	13	2	B
	13	80	15	5	0	A	67	30	4	0	A	81	19	0	0	A	77	20	3	0	A
	14	80	15	5	0	A	67	30	0	4	A	76	21	2	0	A	75	21	3	1	A
	15	68	30	3	0	A	63	33	0	4	A	76	24	0	0	A	70	28	1	1	A
	16	15	75	10	0	A	30	48	19	4	B	38	50	12	0	B	28	59	13	1	B
	17	78	23	0	0	A	59	41	0	0	A	81	17	2	0	A	74	25	1	0	A
	18	83	18	0	0	A	67	30	4	0	A	83	14	2	0	A	79	19	2	0	A
	19	40	60	0	0	A	22	63	11	4	B	38	55	7	0	A	35	59	6	1	A
	20	35	60	5	0	A	22	63	15	0	B	60	36	5	0	A	41	51	7	0	A
	21	58	35	5	3	A	41	44	4	11	B	50	45	2	2	A	50	41	4	5	A

【評価できる点○、課題点●とその要因として考えられること◇】

○ 1 年生で「道徳の時間」の学習が好きだと答えている生徒の割合が増加している。（4、3 合わせて 76%から 86%へ）【質問 1】

→◇ 指導方法を工夫してきたことにより、資料を通して考えることに面白さを見出した生徒が増えてきたと考えられる。

○ 2 年生の「道徳の時間」の学習はためになると答えた生徒が 4、3 合わせて 100%になった。（7 ポイント増加）【質問 2】

→◇ 思考力の向上により、道徳の時間を面白い、面白くないという尺度だけでなく、自身の将来と関連付けてとらえられるようになってきたと考えられる。

○ 昨年度あまり変化の見られなかった「自分にはよいところがあると思うか。」の質問で、4、3 合わせて 9 ポイントの上昇が見られた。特に 3 年生では 17 ポイント上昇している。【質問 3】

→◇ 日常の学校生活を通して自己肯定感が高まっている。

○ 2 年生の「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」と答えた生徒が、4、3 合わせて 100%になった。（11 ポイント増）3 年生でも 4 と答えた生徒が 17 ポイント上昇している。【質問 4】

→◇ 文化祭など行事で力をあわせて成功した経験を積むことができたと考えている生徒が多い。
○ 2、3 年生において「道徳の時間に、ほかの人の考えを聞きながら、自分のことについてよく考える」生徒が増加している。【質問 12】
→◇ 話合い活動が自然と行わるようになった。また、この結果は、他の道徳に関するアンケート結果の数値的上昇に影響したとも考えられる。
○「努力する人間になりたい。」「将来のためにも、今、頑張りたいと思う。」生徒が 3 年生を中心に増加している。【質問 14･15】
→◇ 精神的な成長を遂げ、自身の将来を見据えられるようになってきたと考えられる。
○ 昨年度も今年度も、全般的に見て 3 年生で大きな変化が見られる。
→◇ 道徳教育の蓄積の成果ともいえるし、進路選択が人間的成長に大きな役割を果たしていることも推測される。
●「学校の決まりを守っている」と答えた生徒が減った。【質問 10】
→◇ 学年がかわり半年が経過した気の緩みともとらえられるが、一方で規範意識の向上により自分に厳しくなったともとらえられる。
● 1 年生で、「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦する生徒」や 2 年生の「部活動で高い目標に向かって苦しいことにもくじけずがんばろうとしている生徒」が減少している。【質問 5･21】
→◇ 1 年生は中学校に入学しはじめての経験がたくさんあり、2 年生は部活動の世代交代が有り環境が変化している。適応に苦しんでいるが、その後の成長につながるであろう。

３　まとめ

今年度の研修では、昨年度までの 2 年間の研修の上に道徳の時間の授業改善を中心とした研修に取り組んできた。結果として、道徳の時間の質的・量的な確保には十分につながったと考えられる。また、学校教育全体を通して道徳教育を行うことへの職員の理解は深まった。一方、そうした研修の成果が、生徒アンケートの結果や学校生活の様子に反映されているかといえば、まだまだこれからである感は否めない。それが道徳性を評価することの難しさでもあり、同時に道徳教育の面白さでもある。道徳の時間が生徒の変容をすぐに求めるものではないように、本研修の成果が一人一人の生徒の将来にプラスに働いてくれることを信じ、今後もよりよい道徳教育を目指していきたい。

研究同人

校　長　菅谷　礼示	教　頭　三原　一志	教　諭　奈良　保宏
教　諭　山本　順子	教　諭　福田亜由子	教　諭　宮下　昌志
教　諭　佐藤　俊宏	教　諭　竹内　正則	教　諭　奈良　達也
教　諭　若林　裕子	教　諭　笹﨑智絵美	教　諭　髙田　優樹
教　諭　森山　　威	養護教諭　本田　公子	統括補佐事務長　町田　和恵
支援員　川端由美子	用務員　小林　陽子	